

第3回 伊東市立学校・園適正規模及び配置検討委員会会議録

- 1 日 時 平成29年9月27日（水） 午後2時00分～午後4時15分
- 2 場 所 伊東市役所低層棟 3階 第二委員会室
- 3 出席委員 19人
- 4 欠席委員 1人
- 5 事務局 教育長、教育部長、教育部次長兼教育総務課長、教育指導課長、
幼児教育課長 他4人

6 会議の経過

事務局：定刻になりましたので、只今より第3回伊東市立学校・園適正規模及び配置検討委員会を開催いたします。前回の第2回会議で協議いたしましたアンケート調査につきましては、保護者などを対象に実施し、この度、集計結果とその分析をまとめるに至りました。しかしながら、1年3か月もの期間、本委員会を開催することが出来なかったことで、委員の皆様にはご心配をお掛けしてしまい申し訳ありませんでした。それでは開会に先立ちまして、教育長から委員の皆様には御挨拶をいただきます。

教育長：統廃合や学区の編成等、適正化に向けては、教育委員会として3つの方針があります。これは市議会で何度となく答弁しているところです。1つ目として子供たちにとって、より良い教育環境を整えることを第一に考える。2つ目に保護者や地域住民の思いや考えを最大限に尊重する。3つ目に本市における教育環境について広い視野で先を見通して物事を考える。この3点を基本方針としているところであります。

伊東市としましては、児童・生徒数の減少が著しい現状ではありますが、決して「子どもの数が減ったから統廃合する」という対応ではなく、小規模校の良さや問題点なども含め、忌憚のない意見を出して進めていく場かと考えています。

今回、本市では初めてとなる、学校規模や配置に関する大規模なアンケート調査を実施し、保護者を中心に2,600もの声を回収いたしました。アンケート結果から分かる現状の問題点、ここをスタートラインとして、各種団体の代表である委員の

皆様からの声を酌み入れながら、今年度中に建議書としてまとめていただければありがたいと思っております、更なるご支援をいただきたいと思っております。

事務局：さて、当委員会の進行につきましては、設置要綱により委員長が議長として進めていくこととなります。委員長よろしく申し上げます。

委員長：本日はお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。ただいまから第3回 伊東市立学校・園適正規模及び配置検討委員会を開会いたします。ここで事務局より諸般の報告があります。事務局申し上げます。

事務局：本日、委員1人から欠席の連絡が入っておりますので、報告させていただきます。また、本日の会議時間は午後4時までの2時間程度を予定しておりますので、重ねてご協力の程よろしく願いいたします。続きまして、役員交代などに伴い、今年度から新たに委員に就任いただいた方々に対し教育長から委嘱状をお渡しいたします。名前を呼ばれましたら、その場でご起立をお願いします。

(委嘱状の交付)

委員長：それでは議題に入ります。本日は、報道機関も取材でいらっしゃってます。本委員会設置要綱第6条第4項では会議は公開を原則としており、特別な理由がなければ本日の会議も公開により行いたいと考えておりますが、ご異議等ございますでしょうか。

(「異議なし」の声)

委員長：ご異議なしと認め、公開により行うことといたします。

議題(1) アンケート調査の集計結果について

委員長：それでは、議題(1)「学校の規模・配置に関するアンケート調査の集計結果」について事務局の説明を求めます。

(事務局から資料に沿って説明)

委員長：只今の説明について、ご質問がございましたら、お願いいたします。

委員：今回のアンケートの中でいわゆる小規模校と言われる文部科学省の人数に満

たない学校に対する意見が多くありますが、逆に南小とか南中のような大規模の学校も適正規模ではないという解釈でよろしいでしょうか。

事務局：標準となる学級数は国が示しておりますが、この標準数だけを見て、これに当てはまらないから「適正でない」とは簡単には言えないと思います。もう一つの目安として平成 27 年に文科省が策定した「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引き」があります。これには、1 学年当たりの標準の学級数を基にした学校規模の対応の目安が示されており、具体的には小学校では 1～5 学級は「課題が極めて大きく、学校統合等の適否を速やかに検討」となっています。つまり、委員のご質問に対しては「南小や南中は標準を上回る規模ではあるが、あり方の検討までを示唆されてはいない」という回答になろうかと思えます。

委員：子供の絶対数が決まっている以上、少なくとも多くても適正規模でないのなら、多い学校から少ない学校へとバランス良くなるように学区を編成するというのはどうでしょうか、ということを知りたかったのです。アンケート結果も学区編成を希望していることでした。

事務局：学区編成によって適正な規模の学校に出来るのではないかと、というご質問ですが、それも方法の一つだと思います。そういうことも含め、課題を出していただいて市教委に建議してもらおう。そこで挙げた課題を懇話会に諮問し、審議していきたいと考えています。この後の議題で、アンケートから読み取れる課題をまとめてありますので、その中で今言われた「人数の多い学校から少ない学校へとバランス良くなるように学区を編成する」というのも入れていただければと思います。

委員：今の説明も分かりますが、伊東市はもう 10 年先でも相当数の人口減が予想されるので、その時は統廃合を考えなければならないと思いますが、それまでの対策としてどうでしょうか、という考えです。

事務局：5 年後には今より児童生徒数が 650 人減るというデータもありますので、それに合わせて統廃合すべきで、今は人数の多い学校から少ない学校へとバランス良くなるように学区を編成する、ということもご意見として出していただければと

思います。

委員：小規模校の良くないところ、大規模校の良くないところのアンケートを取っていたものですから、それなら均してしまったら課題も解消されると思ったものですから提案した訳です。

委員長：アンケート結果を見た上で、今後どうしたらいいかを考えるのがこの会。今の委員の提案も一つの意見として、最終的には建議としてまとめていきたい。

委員：2点質問があります。アンケート結果では小学校の1学年は2～3学級を希望する人が多くなっています。アンケート全体の集計だとそうになってしまうのかもしれませんが、今も既に標準規模・複数学級でない学校もある訳で、例えば自由意見の中で「実際はこういうところが困っている、課題となっている」というような意見があったかどうか教えてください。もう1点は、大規模校になると先生の目が行き届かなくなるという点が割と見られていて、それによって、いじめとか学力低下が懸念されるからだと思いますが、これは生徒対先生の配置の基準を見直すという事で補える問題ではないでしょうか。

事務局：自由意見については、基本的に資料40ページ以降に載っています。例えば意見No.9の川奈小の保護者からは「この人数では学校とは言えないと思う」という意見もありました。件数までは分かりませんが、このように今の規模を変えるべきだという意見は他にも出ています。

事務局：教員の人数の話ですが、基本的には児童生徒数に基づいて学級編制をします。クラス数に応じて県の方が何人ということになっていますが、それに加えるように各学校で課題を持っているような場合、目的に応じて県の方で増える場合もあります。大規模校、中規模校、小規模校にもそれぞれ課題があり、それに対応する為に多少県からの加配があります。

委員：制度は分かりませんが、多人数の学級に別にもう1人先生を付けることが可能なかどうかを伺いたかった。

委員：私は教員の目が届かないということについて、絶対悪とは思っていません。

子どもにとっては、それくらいの余裕というか息抜きが必要だとも思っています。

委員：アンケートの結果に対して質問している訳で、私も人間関係が複雑になるとか、必ずしも悪とは思ってないし、先生が見ていないところで子どもたちだけで少々トラブルが起きることが悪いとか、いつも温室状態でいた方がいいとか思っています。アンケートで割と大きなシェアを占めた課題に対して、先生を配置することが可能なら課題も解決されるのではないかなあと思いましたし、そういった提案・意見を学校現場の先生に聴いていただくことが出来ればいいな、と思いました。

事務局：補足させていただくと、先ほど教員の人数は、児童生徒数に応じた学級数で決まると説明しましたが、それ以外に県や市の支援員という先生が授業をやっているのを教えたり、ケアしたりする職員の配置もあって、それはその学校の現状を見ながら割り振って学校の安定を図っています。

委員長：今の委員の意見は、このアンケートの取り方をもうちょっと変えた方がいいという意見だったと思います。もう1回アンケートを取ればまた違う意見も出てくるのではないかと思いますので、当局もそれが可能なら、もうちょっと工夫して取り直したらどうでしょうか。

委員：アンケートの結果で部活動に対する意見がだいぶありますが、この学校に行かないと、この部活が出来ないという理由で移っている人数はわかりますか。

事務局：伊東市は学区制を敷いているので色々な理由を指定校変更制度によって許可しています。部活動を理由とした指定校変更もありますが、件数のデータを今は持ち合わせておりません。

委員長：以上で議題(1)の「学校の規模・配置に関するアンケート調査の集計結果」を終わります。

議題(2)「本市の学校規模・配置の現状と課題」

委員長：続いて議題(2)「本市の学校規模・配置の現状と課題」に移ります。事務局の説明を求めます。

事務局：先ほどはアンケート調査の結果を報告させていただきましたが、次はアンケート結果から分かる伊東市の課題と現状について、ご意見をいただきたいと考えています。

その前に、アンケートの中に「統合ありきのアンケートではないか」というご指摘もありましたが、これについては、教育長のあいさつにもあったとおり、市として、どことどこを統合するという考えがあってスタートしている訳ではありません。現状の児童生徒数があって、今後減っていくことが予想される中で、一番ふさわしい学校規模をどのように考えていくのか。その議論の切っ掛けとして広くアンケートを取って、意向を確認し、そこがスタートラインとなって、そこから出された現状と課題について、各種団体からお集まりの皆様からご意見とかご提案をいただければと考えている訳でありまして、先ほどの委員のご意見も、大規模校として課題として挙げられることに対し、教員の加配制度が出来れば、それで一つ課題は解消されるのではないかと、というご意見であったと受け止めております。そういう提案も含めこの委員会の中で色々出していきたいと思っています。

イメージを先に申し上げて恐縮ですが、これをたたき台にして皆さんから色々意見をいただいて、これを肉付けした物を「この委員会としては、こういったことを課題として捉えているよ」と、まとめていただきたいと考えています。

(事務局から資料に沿って説明)

もう一つ、本日配布した資料については、これまで2回の会議の中で出された意見をピックアップした物です。前回会議からの間が空いてしまったこともありますし、前回までに出された意見を踏まえての意見もいただきたいと思います。

委員長：委員全員から広く意見を頂戴したいというのが事務局の希望のようですので、恐れ入りますが順番にご発言をお願いいたします。

委員：少子化により色々問題が起きているから、そもそもこの会議が開催されるのだと思いますが、将来子どもが健やかに育って、それが社会の利益にもなる。ですので、色々な保護者や教員、地域の人たちの考えもあるし、それぞれメリット・デ

メリットがあると思いますが、中心に置くのはあくまで子どもの将来的な利益というところはブレてはいけないと思います。それを通すことによって少々不利益を被る保護者・教員・地域住民がいるかもしれませんが、そこはやっぱりみんなが協力をして子どもの為に時には我慢するべきだという考えでいます。アンケートを書いた方は現状に対して答えていますので、5年後10年後、今、問題視されている課題が深刻になった時に社会が受ける不利益に対し、今から手を打っていかねなければいけないのではないかという視点はこの会議が持っていなければならないと思います。

委員：今おっしゃったこと、考え方も一緒なのでそこは省略しますが、付け加えるならば沼津・三島・伊豆半島の地域の大体で統廃合が進んでいる中、伊東だけが動き出していないので、他の市で実施したメリット・デメリットを知ることが出来たら判断材料になると思います。

委員：川奈小のPTAなので、この会議に関わりがあるところにいます。川奈小は本当に小さい学校で、1年生がいなくて6年生までで34人しかおらず、子どもたちもみんな仲の良い学校です。海が近く、海の行事も一杯あります。保護者の気持ちからすると、学校が無くなって欲しくはありませんが、6年生には男子が1人しかいない、2年生は4人全員女子という中で、友人関係の問題があるということも耳にはしています。無くなって欲しくはありませんが、そういった問題はどうしたら良いのか、という気持ちです。

委員：アンケート結果の12ページには学級数が北中と宇佐美中と対島中の保護者は4～6学級が理想だと言っていますが、自分の時がそうだったので、きっとその保護者の時がそのクラス数だったのだろうと思います。昔を思い出して「あんなだったらいいな」という意見なのかなあと感じていましたが、宇佐美中は今後、4～6学級とかはなかなかないと思うので、現実的じゃない意見だと思います。あまりアンケートに特化して検討するというのも間違った方向に行ってしまうのではと感じました。

前回までの発言の中で「現状の数をベースにするよりも将来の数を」というのが

ありますが、自分はアンケート自体ざっくりし過ぎていて何をどう考えたらいいのか分かりづらいと思いました。今のまま維持することは出来ないと思いますが、少子化や建物の老朽化、今の学校数を維持していくのは難しいのではないかと思います。そうなってきた時に、もう少し具体的に「どことどこをどうしていこう」ということが見えてくれば、検討出来るのではないかと思います。

「アンケートには学区選択制を望む意見も多い」とありますが、「どこでもいいですよ」となると仲の良い友達同士が固まるようなことになったら元の学区が無視されてしまう心配もあると感じましたので、学区の見直しは必要だとは思いますが、そこはシビアにやる必要があると思いました。

委員：南中PTAからの参加です。大規模校、南小から南中へと大きな学校ばかりを経験しているのですが、近くには川奈小もあり、その違いを色々耳にすることがあります。伊東に住んで17年、その間、川奈小の児童数はどんどん減っていると聞きます。小規模になったので指定校変更で南小に行く子どもがいたり、先ほど話のあった男女比の問題で指定校変更したとか。小規模校への変更を緩やかにするというのは制度としては違うのかもしれませんが、学区を選べるようになると川奈小のような特色のある学校だと、そこを希望する人も増えて、ある程度均衡が取れてくるといいと思います。

子どもが減り続け、中長期的には現状の学校数を維持していくことは難しいと思うので、他の自治体のやり方とか生じた課題などを検討し、いずれ統廃合が必要になった時にそこをスムーズに出来たらいいと思いました。

委員：保育園からの参加です。小学校の子どもも2人いて南小に通っています。私自身、稲取の方で育ち、私の代からどんどんクラスが減っていく状況の中で2クラスとか1クラスできました。「大規模だからどう」とか「小規模だからどう」という考え方がいまいちピンと来なくて、小さければ小さいなりにその中でうまくやっていく方法を見付けるでしょうし、大規模校であっても仲の良い友達はその一部で、そんなに差はないのかなあとと思います。

細かい指導が行き届きにくいという大規模校の課題に対しては、保護者から様々な要望もあって、そういったことの対応で先生が指導しにくくなっているんだろうなあとと思うところもあります。これは今回の課題とは違いますが、課題があるなら「何故そういった課題が生じているのか」ということも掘り下げて欲しいと思いました。

委員：学童保育利用者からの参加です。自分自身、東小学校に小2の子どもが通っています。今、東小は資料の9ページにあるとおり、2年生は1クラス34人です。1クラス34人というと、かなり多いという印象を受けましたが、自分の時はどうだったのかというと、自分の時も34人1クラスで、その中で過ごしてきたんですけど、自分が親になって子どもの立場と代わった時に、親として何を求めるかということが初めて分かってきて、もうちょっと先生が教室を回りながら机の上で赤丸を付けてくれたり、スキンシップもあって、1・2年生は「先生、先生」と寄ってきた時に1対34だとどうしても「ちょっと待っててね」というシーンが多くなってくるので、親としてはもうちょっと、というのはありました。だから、こことここを合わせて分ければいい、という簡単な話ではないのかなあと思います。

学童についても、今、南小は4学級あって、数字の上では適正なのかもしれませんが、共働きが増えている中で、学校がクラスでぎっちり入っていると、学童では空き教室1つしか貸せませんという話になって、入れる子どもも決まってきた、1・2年生しか入れない、3年生になったらもう一人で家で過ごすか、友達と遊ぶとか、過ごし方を自分で考えなければならない状況になっています。片や教室に余裕のある学校では、支援員が足りないというまた別の問題もあったりするので、放課後学童保育と学校がうまく共存していける形を取れたらいいと思います。

委員：議題(1)での私の発言は、この議題(2)の関係でしたので、そのように受け止めてください。私は地域の代表という形での参加ですので、特に、小規模と言われている川奈や池からは、学校教育が非常に地域と密接に対応していて、しかも、学校自体もタテ割り教育に力を入れており、それによって最上級生の6年生のリーダー

シップが立派に取れているという話を聞きます。また、少人数ということもあって活発な意見のやり取りも出来て、子どもの成長を見るには残した方がいいということが意見として出ていましたので述べさせていただきます。

もう1点として、大規模・小規模の問題以前に、各学年の学級数・学年人数、これが35人と20人では当然先生が目が届かないのは当たり前なので、先生の人数の問題はあるでしょうが、大規模校でも逆に言えば1クラスを小規模化すれば問題解決に繋がると考えております。

委員：時代が我々の頃と今とで全て変わってしまっていると思います。私たちの頃は大体1クラス60人欠けるくらい。それが3クラスだったので6学年で1校1,000人規模だった。活気よくやっていた時代がありましたが、今の時代、玖須美に住んでいた若い人は結婚すると富士見町とか上の方に移り住んでしまう。学校の問題は地域の問題と並行しており、時代によって大きく変わってくるので、ここで話し合うとしてもせいぜい何年先の話しか出来ないと思います。

委員：小中学校の校長会の代表として参加しています。この会が平成28年3月に発足してから、校長会でもこの適正配置については折々話題にしてきました。今回、この会議資料をいただき、また、教員も対象にアンケートを取っていただいた訳で、学校経営を中心となって行う校長として、学校の今後のあり方について、きちんとしたものを持っていなければならないということで、今回、事務局が作成した「現状と課題（案）」について校長会としてどう考えるか、あるいは課題についてはどうなのか、ということをもとめてきました。内容については、取りまとめの中心となった委員から報告し、足りない部分は私から補足させていただくということで聞いていただきたいと思います。

委員：先ほど教育長から、学校の適正配置に対する3つの方針についてのお言葉いただきましたが、校長会と同じスタンスが確認出来、ありがたく思っています。そのような観点で校長会として意見を吸い上げる中で、今後の適正規模・適正配置について校長会としてどのように考え、対応していったらいいのか、という話を聞いて

たりしました。結論として「学区の見直しをどんどん進めていながら、そこで対応する」という考えを持っている校長が半分。「学区の見直しだけでは済まないだろう」という考えを持っている校長が半分。ですが、「学区の見直しを」という校長も「何年か先にはもう解決できないであろう」という考えを持っています。学校を中心に地域の文化が育まれていくこともありますので、地域を守るためにも小さな学校を大事にしていかなければならないということも当然のことですが、子どもにより良い教育環境を提供するということを考えた時に、適正学級だとか適正人数というのは、子どもが学ぶために必要な数であるという考えでもあるので、やはりそういうクラス数、生徒数は大事にしていかなければならないだろうということで、近い将来、学区の編成だけでは困難な状況が来るとすることも視野に入れ、伊東市では子どもが何人になり、どれ位の学級数・学校規模になるかを考えて、小学校はいくつ位必要なのか、中学校はいくつ位必要なのか、ということを考えながら新しい学校や新たな文化を作っていく考えも必要だと思います。

委員：事務局資料の「現状と課題（案）」の①と②に対して今、話をされたのだと思います。③1学級当たりの望ましい児童・生徒数については、ここに書いてある通りですが、他の委員が冒頭言われていたように、子どもの数で教員の数が決まってきますので、学校としてはそれでやるしかないという現状があります。20人の学級で担任が1人、あるいは40人の学級で担任が1人という現状もあります。その40人のところで、目が行き届かないところで、例えば県とか市で加配をいただいて、こと細かに見える体制にするというのは、その年度年度ごとに必要になってくると思います。

④複式学級については、なるべく解消していただいた方が子どもの為にはいいということです。

⑥小規模校の課題ですが、校長から多く出たのは、人間関係の固定化、そこで疲弊している子どもたちがかなりいること。結局、学年が変わっても学級を変えられないので、ずうっとそのままの関係が継続してしまって、可哀そうな子どもたちが

いるという現状もあります。何とかそのあたりについて出来ないかなあということ。それに附随して保護者同士のトラブルに発展したりだとか、具体的な例も学校からは挙がってきていますので、どれくらいの規模がいいのかということも今後検討していただけたらと思います。

更に中学校で言いますと、中学校は教科担任制になっていますので免許を持っていなければ教えることは出来ません。ところが、学級数が少ないと教員の数が少なく、固定化されてしまいますので、その教科を教えられる免許を持った教師がいないというケースも実際あります。その場合、免許を持っていない教員が指導に当たるという現状がありますし、学校の中ではどうしようもないので外部から非常勤として招いてその授業だけ教えていただくということもあるなど、少ないと逆に授業の充実という面ではどうなのかなあというところですよ。

また、子どもの数が減り教員数が減ると、部活の数も減らさざるを得なくなります。小さい学校ですと、男女でそれぞれ5つとか6つ部活があったらとても回っていかない、という現状もありますので、そういったところが小規模校の課題なのかなあと思います。

⑦大規模校については、記載のような問題が起こり易いということではありますが、「大規模校＝学級人数が多い」とは限らず、その年度年度で変わってきます。実際、東小では1学年当たり40人近い学級が1クラスあります。でも中学校では30人くらいの学級があると思いますので、このあたりは何とも言えないのかなあと思っています。

最後に、教員の課題として小規模校では色々な場面で手薄になりがちになるということもあります。学級担任が授業に行くともう職員室に誰もいない状態。そこに更に出張に行ったりすると手が回らないような状態が現実的にありますし、係分担としては大規模校でも小規模校でも付かなければいけない分担は一緒ですので、一人の教師が2つとか3つ受け持ってやるとなると、それで忙しくて普段の授業の研究が十分行き届かなくなる為に指導が不十分であるというような傾向もこれから増

えてくるのかなあと思っております。以上、案の⑦までに対する校長会としての意見を述べさせていただきました。

委員：保育園の園長会からの参加です。保育園は0歳から就学前のお子さんを預かっているのですが、その中で子どもを育てやすい環境を作っていかなければならないと思っています。子どもを安心して産むことが出来て、育てることが出来る、そういう伊東市になるにはどうやっていったらいいのかな、と。今後の取組も必要ではないかと思えます。私は地域の中で子どもたちは育てて欲しいと思っていますので、統廃合はして欲しくないというのが正直なところですが、アンケートを見ると「統廃合も仕方ない」「統廃合はしなくていい」が半々に分かれている中で、子どもが1クラスしかいない少人数の学校の中での問題を考えると今後いつかは考えていかなければいけない問題が出てくるのではないかと思います。アンケート結果で小学校の教員が児童の持ち数として21～25人を多くの方が選んでいるというところでは、子どもたちのクラスの人数をもう一度見直してみてもいいのではないかと感じました。

委員：幼稚園の園長会の代表として参加しておりますが、園長会としてではなく、私個人の意見として聴いてください。幼稚園の現状について話をさせていただくと、新聞報道でご存知かと思いますが、宇佐美の宮川分園が平成30年度から宇佐美幼稚園の本園に統合されることになりました。今年度の申込は女の子が6人しかおりませんで、中には「転勤があるかもしれない」とか「もしかしたら保育園が受かるかもしれない」とか、そんな様子があったものですから保護者の方々と話をさせていただき、現状を話したら、やはり初めての集団生活の場であり、大勢の中で遅く育てたいという希望を持たれて全員が本園の方に転校というか、申込をしました。なので、宮川分園は4歳と5歳しかありません。これで5歳児が卒園すると4歳児が5歳児になるのですが、そこに3歳児が入りますか、ということで保護者の理事会を開き、全ての保護者が本園に統合ということに承諾をしてくれました。なので、平成30年度からは本園一本という形になります。

親の代は「子どもたちにとって」というところを考えてくださって、登園の問題などの課題は出たのですが、幼稚園は遊びを中心に子どもを育てているので、ある程度人数がいないとちょっと厳しいということでそんな状況になっています。

私、池幼稚園にもいたことがあって池小の良さ、地域に密着している良さを感じます。池小は小規模特認校として希望があれば受け入れるということですが、川奈小もいるか浜だとか、海を特色とした教育に賛同される方が小規模特認校として入るようになれば複式が解消されるのではないかなあと思いました。

幼稚園の預かりを充実するとか、保育園とか公園の整備とか、子育てしやすいまち、伊東に住みたくなるような環境を作っていくのも一つなのかなあとと思います。

アンケートでは現状のままでいいという数が多かったかと思いますが、いずれ子どもの数はどんどん減っていくということで学区の見直しは必要になると思います。見直しをした上で、どうしても必要ならば統廃合を幼稚園も含めて考えていかなければならないと思います。

委員：市内県立高校の代表で参りました。県立高校も生徒の減少を受けてご存知のとおりあちらこちらで学校の統廃合というのが進んでおります。近いところでは下田北と下田南高校が統合したということもありますけれど、かなり乱暴で、義務教育とそうでない学校の違いはあるのかと思いますが、県の方で第一次計画、第二次計画、今年の終わりに第三次計画が発表になるのですが、計画発表の段階で「どこの高校とどこの高校は統合します」というのがポンと降りてきて、統合した場合どうなるのか、統合した後どんな良い学校にしていくのかということのを両校の職員が摺合せをして統合に向かっていくという形を採っています。そういう意味から言うと、統廃合するか否かという、こういう会議が丁寧に事前に持たれるということは素晴らしいことだと思います。県立高校は必要に迫られてやっていることですが、統合した後、統合して良かったなあと保護者の皆さんが思ってくださいるような学校づくりや教育をやっていくというところまで、この会議で考えられるといいのかなあとと思います。

現状で考えるとおそらく統廃合を避けることにはいかないのでは、と客観的に思うのですが、統合してもっと良くなるという教育を考えていく必要があるのかなあと思います。

委員：事前にアンケート結果を見ましたが、なかなか保護者の意見の中には切実なものもあって、個人的な意見で言うと、地域性を考えた上で学校は配置されていると思いますが、伊東市全域を1つの地域として捉えていただけたらもっと先を見据えた考え方が出てくるのではと思います。全国、県内の他の地域では市町村の合併によって学校・園の統廃合を進められた経過があります。そういったデータも事務局でまとめて示していただければ委員の参考になるのではないかと思います。市長は「みんなが作る伊東市・みんなが楽しい伊東市・みんなが暮らす伊東市」を掲げております。少子化対策については、今後の最重要課題の一つとして市政運営を進めていくことになっておりますので、子どものためにより良い環境を作れるような意見がまとめられたらいいのかなあと思っています。

委員：皆さんの意見を聴く中では、子どものことを第一に考えるというところが根底にあると感じております。将来の子どもの数であったり、教育長の冒頭の3つの視点、こういうのも踏まえながらもっと議論を深めていただきながら伊東市ならではの学校や園の適正規模や配置の方向を決めていければいいのかなあと感じています。

委員：前に配られた資料では、平成27年を起点に、前の5年間で700人減っていて、後の5年でも700人近く減るといような想定が現実としてある訳です。都市計画課はまちづくりをどうしていくか、という部署ではありますが、国の方針もあり、まちはこれからは拡大的なものは出来ない、コンパクトにしていかなければならないのではないか、というような考え方もあります。そういった中で、都市の作り方に合わせて、学校の配置というのも地域の皆さんと色々と考えていかなければならないところです。

教育長のあいさつの中にあっただように、まずは子どもにとってより良い環境を整

えるというところの基本方針、そこは私個人としてもその考えが一番大事なのかなと感じています。また、資料として整理するのは、なかなか難しいとは思いますが、他の都市で現実的にどういった問題があったのかというところも出来るだけ用意していただければと思います。

委員：皆さんの意見をずっと聴かせていただいて、ほとんどあらゆる意見が出尽くしたように思います。ただ、今回のアンケート結果は伊東市の現状をそのまま提示したということなので、出来ればこれからの子どもたちの推移、せめて10年くらいの人口推移。出生率を基にすれば分かると思うので「何年後には小学校、中学校はこれくらいになる」というのを学校・学年別に出していただけると議論の土台は出来るのではないかと思います。500人減る、600人減ると言っても説得力がないので、正確な数字は無理だと思いますが、地域の問題とか、市全体の問題をどう考えていくのか、事務局にはお願いしたいと思います。

委員長：私も団塊の世代であり1クラス63人、4クラスあって1学年250人でかなり楽しい時代だったのですが、自分の息子の時は30何人、3クラスで半分以下になっていて、少子化が加速していく中で将来の伊東市をどう考えていくか、ということについては今、委員の言った10年先を見据えるのか、20年先を見据えるのか、そういう検討も必要だと思います。この会とは違いますが、伊東市の人口を増やすにはどうしたらいいのか、そういうものも考えながら、一番大切なのは子どもを育てるということ、子どもがあってこそ将来も伊東市が成り立つ訳で、色々な方法を考えていきましょう。

事務局の方では、今日出された意見を色々まとめて建議書の案を作成し、皆さんにお示しして次に繋げていくこととなります。他の委員の意見を聴いて、追加でご意見ありますか。

委員：これからまとめていくまでのスケジュールを教えてください。

事務局：教育委員会への建議を今年度中にさせていただくというのが目標です。3月末までの建議を考えておりますので、逆算しますと建議書を最終的に作成するのは年

が変わってから。年内は議会もありますが調整しながら 12 月までには建議書案としてまとめ、年が明けてから改めて皆さんに協議・意見をいただくようなスケジュールを考えております。幼稚園・保育園につきましても、次の会議で意見をいただき、そこも建議書に入れる中で作っていきたいと考えています。

教育委員会から「こういう方法で統廃合したい」という提案を出し、皆さんから意見をもらうというのも一つの方法ですし、伊東は遅いではないかという声もあり、時間が掛かる進め方で申し訳ないですが、やはり丁寧に説明しながら、教育委員会へ皆さんの意見を挙げてもらって、それを教育委員会の方で懇話会という諮問機関に諮問・審議する中で、また地域での説明が必要ならば地域に行って説明するという形で会議を進めて参りたいと思っていますので、よろしくお願いします。

事務局：今、説明を聞いている皆さんの様子を見ていますと「年度内にこの会議で統合案をまとめていく？」という驚きの空気が伝わってきたので補足します。前回もそして今回も何度も申し上げているとおり、どこから手を付けていくのか、何をしたらいいのか、というスタートラインにまだ立っていないという考え方です。例を挙げるなら、今日色々いただいたご意見の中で、例えば川奈小に関するご意見もいただきましたが、アンケートの結果からすると複式学級を早急に解決する対策を採るべきと。また校長会からも他の委員さんからもそこは課題である、という意見が出されましたので、そういったことを積み上げていって最終的には「どこから手を付けていくのか、どういったところを集中的に審議し、結論を出していくのか」というところは教育問題懇話会という専門諮問組織にお願いしていくという流れになっているということもご理解いただければと思います。

この会議はあと 2 回程度を予定しておりまして、次は、今日リクエストのありました他市の事例ですとか、人口の推移・推計とかを出せる準備をさせていただいた中で、掘り下げるテーマを検討し、その点についても議題(2)で使ったペーパーに積み上げて建議書としてまとめていくというイメージを共有できればと思います。

委員：私は市役所の様々な会議に参加しており、教育問題懇話会にも参加したこと

もある者として言わせていただくと、10年前から今の状況（児童生徒数）は分かっていたことだし、今は10年後の状況も分かっている中で、色々段階が必要なのは分かりますが、アンケートの中にも早急に手を打って欲しいという意見もあったし、やはり、信念に基づいて、ある程度自信を持って進めてもらいたいというのが実感としてあります。自分には市内に通う小学生、中学生、高校生の子がいます。ウチの子どもの時は間に合わないとしても、これから通う子や親のことを考えると、「会議のための調査のための会議」であってはならないと思います。そんなつもりはないことは分かっていますが、そこは十分意識していただきたいと思います。

委員長：ご発言がないようですので、これをもちまして、本日の議題はすべて終了いたしました。ご協力ありがとうございました。以上で本日の会議は閉会とさせていただきます。お疲れ様でした。

以 上